

果樹カメムシ類の越冬量が多い状況です

今後の発生動向に注意してください

[現在の状況]

本年 2 月上旬の越冬量調査におけるチャバネアオカメムシの越冬成虫数は、過去 10 年間の中で多発生した平成 18 年に次いで多い(表)。また、越冬地点率は平年よりやや高い。

クサギカメムシの越冬成虫数は過去 6 年中 2 位である。

本年のスギやヒノキの花粉量は平年並か、平年よりやや少ないと予想されており(環境省発表)、果樹カメムシ類の主要な餌であるスギやヒノキ球果も平年並かやや少ないと予想される。

表 チャバネアオカメムシの越冬成虫数(頭/地点)と越冬地点率

地域	調査地点数	H24	H18(多発年)	平年値
県北	3	0	0	0.2
県央	21	12.0	24.8	3.9
鹿行	9	1.4	1.8	0.4
県南	6	1.3	0.5	1.1
県西	3	1.3	3.7	0.6
全県	42	6.6	13.1	2.3
越冬地点率(%)		71	74	34

成虫数/落葉30リットル当たり

[防除対策等]

果樹園では、多目的防災網(6mm目または9mmクロス目以下)の設置が有効である。これにより吸蛾類や気象災害(雹)による被害も同時に軽減することができる。

多発生すると、果樹・大豆・果菜類やキク等多種の作物に飛来し、加害することが懸念されるため、今後の情報を参考にする。



今後、4月下旬~5月下旬に行うサクラでの叩き落とし調査等の結果(毎月の発生予察情報等で提供)を参考にしてください。